

道徳科学習指導案

| | |
|-------|-------------|
| 授業者 | 中野浩瑞 |
| 学年・学級 | 3年1組 |
| 場所 | 3年1組 |
| 日時 | 11月1日(水)4限目 |

1 主題 「人と公平に接する時に」 【C 公正, 公平, 社会正義】

(教材「なおとからのしつもん」『きみがいちばんひかるとき どうとく3』光村図書)

2 授業づくりについて

本校3年生の子ども達は、これまでの生活の中で人に対して分け隔てなく、公平に接することが大切だということを理解している。それは、「平等に決めようよ。」「それは〇〇さんにとって不公平だろう。」といった日頃の発言から感じられる。一方で、友達との仲の良し悪しや、力関係によって態度を変える場面がある。この期の子どもは、気の合う友だち集団を作り、悪気なく排他的になってしまう傾向がある。また、自分中心で物事を考えることが多く、視野が広いとは言えない。これらが作用し、つい自分の気持ちや思いや優先してしまい、自分の行動が相手や周りの人にどのように伝わり影響を与えるかにまでは目を向けられないことがある。

そこで本主題を通して、公平な態度、不公平な態度の意味や、それらの態度が目の中の相手だけでなく周りの人たちに与える影響について考えたい。一人一人が公平さを大切にする社会では、いじめや差別が減り、個性が発揮され多様性に溢れた豊かな人間関係が構築されていく。そしてそれは、より良い社会の形成に寄与する。人が公平な態度で周りの人と関わるためには、公平に接することの意義を感じる大切である。そのためには、それらを妨げる自分自身の弱さに向き合いつつ、客観的な視点から目の前の相手や周りの人が公平または、不公平な行為を見てどのように感じるのかと想像を巡らすことが大切である。また、既知である「人によって態度を変えてはいけない。」という固定的な価値観を問い直し、個人の中に多様なニーズが存在する社会において、人と公平に接することとはどういうことなのかを考えることも必要であろう。子どもたちはそのような考え方や経験を積み重ねることで、公平にすることの良さや意義を実感し、行動に表していく。

本時で扱う教材「なおとからのしつもん」は、友だちに不公平に接したなおとに対して注意したぼくが、なおとから「なぜ、人によって態度を変えたらダメなの？」と質問される話である。教材は、なおとからの質問に対する答えに困る場面で終わる。このような教材の構造の特性から、子どもたちは自然となおとからの質問の答えを考えたくなくなるだろう。それ故、公平に接することの意義を考えることにつながる。また、意義を考える中で、人間的な弱さにふれたり、客観的な立場から考えたりすることになるだろう。そのことから本教材は主題に迫ることに適した教材だといえる。

以上のような子どもの実態と教材の性質から、指導に際しては次の2点を大切にしたい。1点目は、なおとの、友達に対する不公平な態度を見ている周りの人の思いを想像するための工夫である。本教材では、不公平に接するなおとその相手は描かれているものの、周りの存在は出てこない。しかし、本内容項目では先述のように、周りの存在に目を向け、その人たちがどのように感じるのかを想像することが重要になる。そこで、行為を外側から見ている周りの存在を可視化し目を向けることができるようにするために、iPadのアプリ「再現CGメーカー」を使用する。本アプリを用いて、教材の場面を3Dで作成し、授業内で提示することで、周りの存在に目を向け、思いを想像する一助とする。2点目は、人と公平に接することの意味を吟味するための補助教材の活用である。補助教材として、人によって態度を変えて接することが認め得る場面を提示する。子どもたちは、これまで「人によって態度を変えることは良くない。」という価値観に触れてきており、そのことに正しさを感じている子どもは多い。さらには、人によって態度を変えることが全て不公平だと捉えている場合さえある。しかし実際の生活では、人と接する時に、その人の思いや、ニーズに合わせて態度を変えることが認められる場面も存在する。そのことを引き合いに出すことで、人との公平な接し方について深く考えていくことにつながり、公平さを選択し行動する際の重要な見方につながるだろう。

3 道徳的な見方・考え方を働かせる発問生成表をもとにした授業構造図

道徳的な見方・考え方は「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること。」である。道徳科においては行為や事象に対して見方・考え方を働かせ、様々な立場や状況から捉えることが大切なのである。行為や事象に対して違った見方ができると新たな考えが生まれ得る。また、多様な考え方に合うことで、新たな見方も獲得し得る。そこで、本時で用いる教材の中心的な行為や事象から道徳的な見方・考え方を働かせることで生成した発問や問い返し（表1）をもとに、表出されるであろう考え方（図1）についてまとめたものが以下の通りである。

表1 「なおとからのしつもん」における発問生成表

| 内容項目 | 公正, 公平, 社会正義 (差別・偏見) |
|---|---|
| 意義 (自分・相手・社会) ・なぜ大切な (理由) ・どんないいことがあるか (効用) | ・なぜ人によって態度を変えては (不公平にすることは) ダメなのだろう。(意義) ・誰に対しても公平に接することの良さはなんだろう。(意義) ・公平, 不公平って何だろう。不公平にはどんな種類があるか。(意味) |
| 意味 ・何か (内包) ・どんな種類があるか (外延) ・どんなことが必要か (成立条件) | ・不公平にしないために必要な心は何だろう。(意味) ・公平にすることは誰にとっていいことなのだろう。(意義) ・人によって態度を変えて接することは本当に良くないことなのだろうか。(意味) |

| 教材「なおとからのしつもん」 | | | |
|--|---|--|---|
| 立場 行為・事象 | 主人公 なおと | 行為や事象に関わる人物 じゅんや・ひろし ほなみ・ゆかこ | 自分 自分だったら-自分でできているか 何を大切に思っているのだろうか |
| 意義 ・なぜ大切な (理由) ・どんないいことがあるか (効用) | ・なおとに足りない考えは何だろう。(意味) ・なぜなおとは不公平な態度をとっているのだろうか。(意義) ・なおとが公平にする良さは何だろう。(意味) ・この行動の何が問題だろう。(意味) | / | ・自分ならなおとからの質問に何と答えるだろう。(意義) ・この話の何を不公平だと感じるだろう。(意味) |
| 意味 ・何か (内包) ・どんな種類があるか (外延) ・どんなことが必要か (成立条件) | | | ・自分ならなおとからの質問に何と答えるだろう。(意義) ・この話の何を不公平だと感じるだろう。(意味) |
| 立場 状況 | 主人公 なおと | 行為や事象に関わる人物 じゅんや・ひろし ほなみ・ゆかこ | 自分 |
| 時間 ・過去, 現在, 未来 ・～の時… ・子どもだったら ・大人だったら など | ・もし相手が嫌な気持ちになっていなかったとしたら問題はないのだろうか。(方法) ・(相手が傷つかないという前提で) 休み時間と授業時間 (みんなの時間) では同じ行動でも感じ方は違う? 同じ? (場所) ・仲の良い相手だったらこの行為は許されるだろうか。(相手との関係) | ・仲間に入れてもらえないゆかこを見てほなみはどう感じるだろう。(対象) ・「ええ嫌だな」と言われているひろしを見てじゅんやはどう感じるだろう。(対象) | ・もし誰も傷ついていないとしたら態度を変えて接することは悪いことだろうか。(方法) ・もし自分がこのクラスの一員だったらどんな気持ちになるだろう。(対象) ・人によって態度を変えてはいけないと言われているのはどんな時, 場所, 相手だろう。(対象) ・人によって態度を変えるべき時, 場所, 相手は何だろう。(対象) |
| 場所 ・私的な場所⇄公的な場所 ・(教材の場所) から… (別の場所) に変わったら など | | | ・もし相手が嫌な気持ちになっていなかったとしたら問題はないのだろうか。(方法) ・(相手が傷つかないという前提で) 休み時間と授業時間 (みんなの時間) では同じ行動でも感じ方は違う? 同じ? (場所) ・仲の良い相手だったらこの行為は許されるだろうか。(相手との関係) |
| 相手との関係 ・同級生⇄年上, 年下 ・家族, 友達⇄知らない人など | ・もし相手が嫌な気持ちになっていなかったとしたら問題はないのだろうか。(方法) ・(相手が傷つかないという前提で) 休み時間と授業時間 (みんなの時間) では同じ行動でも感じ方は違う? 同じ? (場所) ・仲の良い相手だったらこの行為は許されるだろうか。(相手との関係) | ・仲間に入れてもらえないゆかこを見てほなみはどう感じるだろう。(対象) ・「ええ嫌だな」と言われているひろしを見てじゅんやはどう感じるだろう。(対象) | ・もし誰も傷ついていないとしたら態度を変えて接することは悪いことだろうか。(方法) ・もし自分がこのクラスの一員だったらどんな気持ちになるだろう。(対象) ・人によって態度を変えてはいけないと言われているのはどんな時, 場所, 相手だろう。(対象) ・人によって態度を変えるべき時, 場所, 相手は何だろう。(対象) |
| 対象 ・自分→家族・友達→多くの人 ・違ったもの など | ・もし相手が嫌な気持ちになっていなかったとしたら問題はないのだろうか。(方法) ・(相手が傷つかないという前提で) 休み時間と授業時間 (みんなの時間) では同じ行動でも感じ方は違う? 同じ? (場所) ・仲の良い相手だったらこの行為は許されるだろうか。(相手との関係) | ・仲間に入れてもらえないゆかこを見てほなみはどう感じるだろう。(対象) ・「ええ嫌だな」と言われているひろしを見てじゅんやはどう感じるだろう。(対象) | ・もし誰も傷ついていないとしたら態度を変えて接することは悪いことだろうか。(方法) ・もし自分がこのクラスの一員だったらどんな気持ちになるだろう。(対象) ・人によって態度を変えてはいけないと言われているのはどんな時, 場所, 相手だろう。(対象) ・人によって態度を変えるべき時, 場所, 相手は何だろう。(対象) |
| 方法 ・～ってどうすること ・どうしたら～ など | ・もし相手が嫌な気持ちになっていなかったとしたら問題はないのだろうか。(方法) ・(相手が傷つかないという前提で) 休み時間と授業時間 (みんなの時間) では同じ行動でも感じ方は違う? 同じ? (場所) ・仲の良い相手だったらこの行為は許されるだろうか。(相手との関係) | ・仲間に入れてもらえないゆかこを見てほなみはどう感じるだろう。(対象) ・「ええ嫌だな」と言われているひろしを見てじゅんやはどう感じるだろう。(対象) | ・もし誰も傷ついていないとしたら態度を変えて接することは悪いことだろうか。(方法) ・もし自分がこのクラスの一員だったらどんな気持ちになるだろう。(対象) ・人によって態度を変えてはいけないと言われているのはどんな時, 場所, 相手だろう。(対象) ・人によって態度を変えるべき時, 場所, 相手は何だろう。(対象) |

○教材における本学級の子どもが捉えるであろう中心的な行為や事象

人によって態度を変えて接するなおとの行為。



○本学級の子どもが教材に出会い、表出するであろう考え方

・不公平な態度だ。
・ひどい。いじめにつながる。
・なんでこんなことするのだろう。
・見ていると嫌な気持ちができる。
・せめて誰にも見られないところで態度変えて接したらいいのに。



○見方・考え方を働かせるための発問を通して表出されるであろう
子どもの考え

…見方・考え方を働かせる発問
 …子どもの考えの例

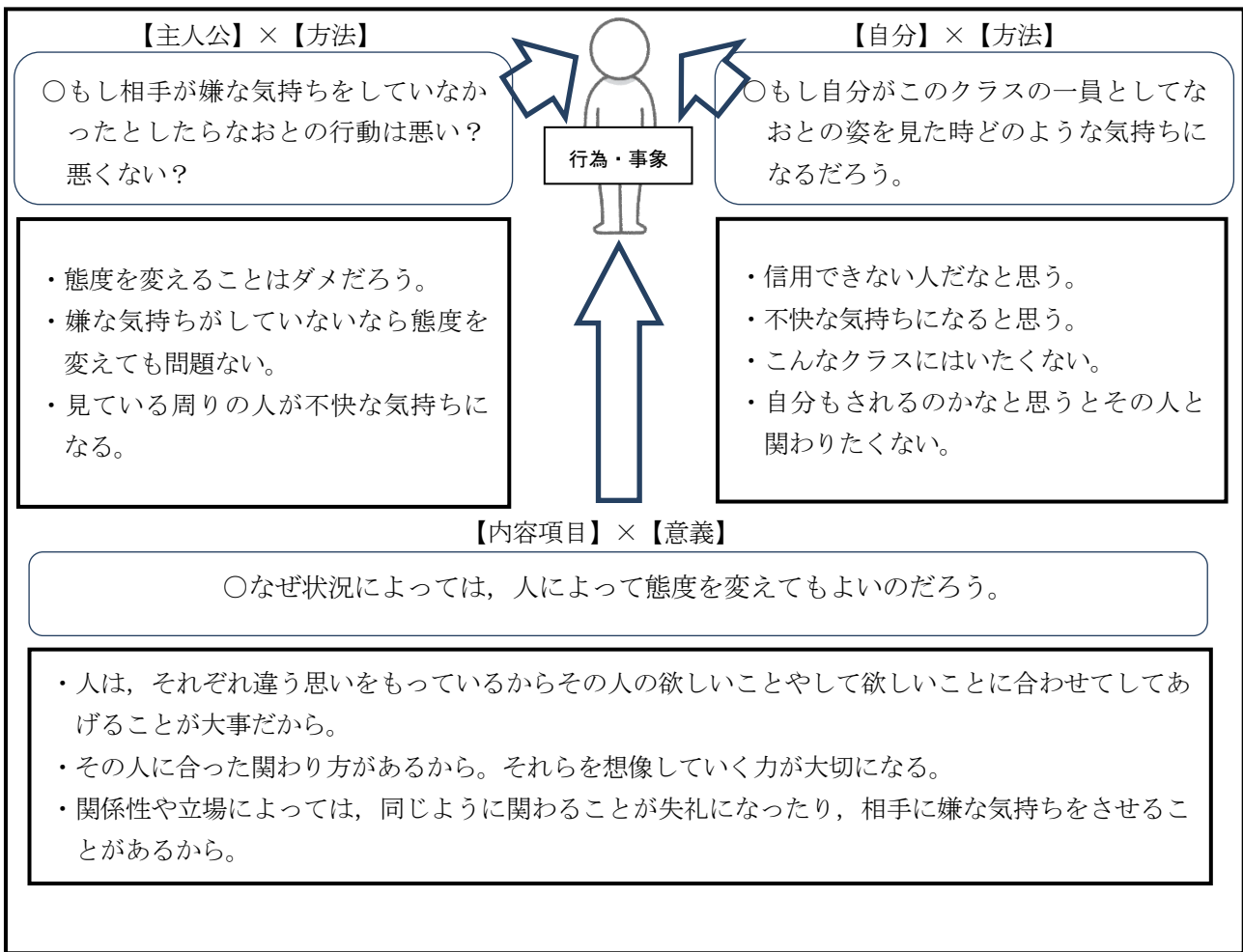


図1 「なおとからのしつもん」における道徳的見方・考え方を働かせる授業構造図

4 評価の観点

- ・不公平な態度が周りに与える影響について自分との関わりの中で考えようとしていたか。
- ・人によって態度を変えて接するなおとの姿を様々な立場と状況から考え、友だちと対話する中で道徳的な見方・考え方を働かせようとしていたか。

5 本時の展開

(1) ねらい

人によって態度を変えるなおとの姿を通して、不公平な態度が周りに与える影響と共に、人によって態度を変える場面、変えない場面の違いについて考え、誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接しようとする道徳的判断力を養う。

(2) 展開

| 学習活動 | 主な発問と予想される子どもの反応 | 教師の働きかけ |
|--|--|--|
| 1 人によって態度を変えることについて考える。 | ○「人によって態度を変える」ことをどう思いますか。 ・だめ。よくない。 ・最低。 ・相手が傷つく。信頼されない。 | ・教材にスムーズに入ることができるようにするために教材の中心に描かれている「人によって態度を変えること」について聞く。 |
| 【学習問題】 なぜ人によって態度を変えるのはよくないのだろう。 | | |
| 2 教材文「なおとからの質問」を読んで、話し合う。 | ○なおとの行動の問題は何だろう。 【席替えの場面】 ・相手が傷つく言い方をしている。 ・自分の好みで態度を変えている。 【ドッジボールの場面】 ・仲間はずれにしているところ。 ○あなたが「ぼく」だったら、なおとからの質問「なんで人によって態度を変えちゃダメなの？」に何と答えるだろう。 ・相手が傷つくからダメなんだよ。差別。 ・いじめにつながるかもしれないでしょ。 ・楽しくなくなる。悪いクラスになる。 ◎なぜ状況によっては、人によって態度を変えてもよいのだろう。 ・人はそれぞれ違う思いをもっているから。 ・その人に合った関わり方が大切だから。 ○人によって態度を変えるべき場面、変えてはいけない場面がある社会で、あなたはこれから何を大切に生活していきたいですか。 ・相手がどのように思っているのかを想像しながら関わる。 ・相手だけではなく周りの人も含めてどのように感じるのかを想像する。 | ・なおとの問題行動を、周囲の人の視点から捉えることができるようにするために、再現CG メーカーを使い、教材に描ききれてない周りの人が見えている場面を提示する。 ・周りの人の思いへ意識を向けるために、「もし相手が嫌な気持ちをしていなかったらどうだろう。」と見方・考え方を働かせる発問を投げかける。 ・必ずしも人によって態度を変えないことが大切だとは言えない場面を提示することで、平等とそうでない場合の比較から生活上の人との関わりの中で大切にしたいことについて考えていく。 |
| 3 本時のふり返りをする。 | ○今日の授業で新しく出会った考えや気づいたことは何ですか。 ・人によって態度を変えないというけれど、場合によってはそれを自分もしていることがわかった。 ・平等にしない方が良い場面も存在すること。 | ・授業を通して自分なりに納得したことや考えたことを整理するために、自分の言葉でノートにまとめるように促す。 ・自分考えの変容を自覚できるようにするために |

